

# 長野の林業

No.  
378

## 特集

林業総合センターからのお知らせ  
北相木村で始まった「新しい木材」の利用

### トピックス

- ・カラマツフェス
- ・林業大学校男子寮棟構造見学会
- ・きのこ品評会
- ・若手林業ビジネスサミット

### 県森連だより



北相木村は、人口709人(R3年9月末)、村の面積の91%が森林で自然豊かな村です。北相木村の団体「キノハナ kinano」が木からお花を作る「キノハナ」の取組みを始めています。

(4ページに関連記事掲載)

# 林業総合センターからのおしらせ

## 育林部と木材部の取組から

前号では、今年度から開始した基本計画を受けて、指導部と特産部の取組をご紹介しました。今回は、育林部で進めている種苗生産の取組と、木材部が行った技術支援の取組をお届けします。

### 採種園へのカラマツ特定母樹の導入について

育林部より

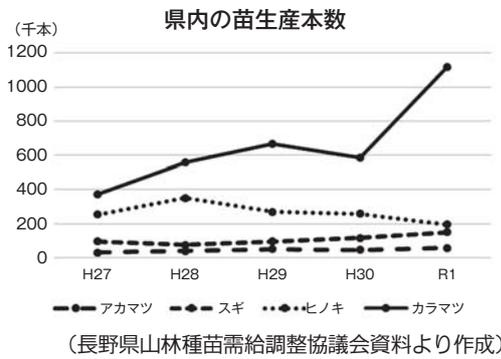
#### はじめに

長野県では主伐再造林が進み、苗木の需要が増加しており、性能に優れた苗木を大量に生産することが求められています。特にカラマツ苗木の需要が急激に増加し、生産数も大きく伸びているところ、今後も高需要の傾向が続くと予想されます。

多くの苗木を作るには多くの種や穂木が必要ですが、遺伝的に優良な種苗を確保するため、指定採種園からの採種（採穂）に努めることとなっています。長野県では優良な形質を持つ品種の採取源として県内で8つの採種園が管理されていますが、カラマツ苗木の将来的な需要を見据え、米子採種園・中箕輪採種園・小海採種園・片丘採種園（新規造成）の4箇所、カラマツの「特定母樹」が新たに導入されています。

#### 〈特定母樹とは〉

平成25年の間伐等特措法の改正により創設された制度で、「特に優



良な種苗を生産するための種穂の採取に適する樹木であって、成長に係る特性の特に優れたもの」として農林大臣が指定したものです。

「エリートツリー」と混同されがちですが、エリートツリーは、第一世代精英樹のうち成長や形質等の特性が上位のものを交配させて育成された第二世代の試験林から、特に優れたものとして選抜されたものです。さらに第三世代の選抜にも取り組まれており、育種素材として重要な集団となっています。一方、特定母樹は実際に山行き苗を生産するための集団として、より厳しい基準により指定されていますが、必ずしも全てがエリートツリー由来というわけではありません。とは言っても、特定母樹の約9割、カラマツについてはすべての特定母樹がエリートツリーから指定されています(令和2年度末現在)ので、県内の採種園に新たに導入されたカラマツ特定母樹は、エリートツリーの中からさらに選ばれた系統と言えます。

#### 〈種子がとれるまで〉

採種園に導入されたカラマツ特定母樹は林木育種センター長野増殖保存園にて接ぎ木により増殖し、配付を受けたものですが、接ぎ木のカラマツでは結実開始樹齢は15年ほどといわれています。その間には、毎年の下刈りや、施肥、断幹や剪定による樹形管理が必要になります。当面は採種木の成長を促し、早期に着花できるように、適切な管理



肥料の土壌灌注  
(対象はカラマツ材質優良品種)



肥料の埋設



中箕輪採種園のカラマツ特定母樹

を継続する必要があります。

当センターではこれまで、他道県等の研究機関とともに、昭和30年代に造成された壮齢のカラマツ採種園において、光環境の改善、環状剥皮等による着花促進の効果を確認してきました。新たに導入された特定母樹から十分な採種ができるようになるまでは、これらの技術を県内の壮齢採種園に活用して種子の増産を図る予定です。また、特定母樹に対しても、早期に種子生産が可能になるよう、効果的な施肥管理等について検討していきたいと考えています。

【林業総合センター育林部】



環状剥皮の跡

## 地域の林業・木材産業と連携した 技術支援を行いました ～木材部より

「林業総合センター基本計画」では各部横断で「生産現場からの要請に応える技術支援」を掲げています。そうした中、今年度、松本技術専門校(以下松本技専)へ技術支援を行いました。

松本技専の建築大工及び技術者を目指す学生達は、毎年、木材試験



指導部：樹木を知る



指導部：森林の様子を学ぶ



育林部：苗木の生産から植栽を知る



特産部：しいたけ生産(ほだ場)を知る



木材部：学生が製作した貫工法壁の強度試験

「技術支援」を実施していきます。

【林業総合センター木材部】

「林業総合センター基本計画」に掲げる「技術協力」「依頼試験」。

「技術支援」を実施していきます。

自分達が製作した壁が「どのように壊れていくのか？」を確認できる貴重な体験になったと思います。試験後、学生からのアンケートをいただきましたが、「これから家を建てる上で木を知ることが、森林を知ることが大事だと思いました」との声を多くいただきました。

棟の試験機を使い、自ら作製した木製の壁などの強度等を知る授業を実施してきましたが、建築科指導員から「学生は木材をコンクリートやプラスチック等の二次製的な材料と同じに捉えているため、木材の強度を知る前に、実際の森林を見ながら、木の生育環境(木の育ち方等)も研修させたい」とのお話がありました。

そこで、7月20・21日、松本技専建築科2年生17名が、センター全体をフィールドにして、「森林から木材になるまで」を学ぶ研修を、新型コロナウイルス感染症対策、熱中症対策に十分注意しながら実施しました。

木材部では学生が製作した日本の伝統工法である「貫ぬき」と在来工法の「筋交い」の強度試験を実施しました。

試験方法は、下部の土台を固定し、上部の梁を横に押し・引きして壁を破壊する試験です。

# 北相木村で始まった「新しい木材」の利用 木から生れるお花

キノハナkinanoは、北相木村の女性が集まり「女性が輝ける仕事」と「木材の有効活用」をテーマに2018年9月に立ち上がりました。きっかけは2016年8月、村の木工所から譲り受けたカンナ屑から良い香りが漂い、これを何かに利用しないとつたいたいない、と動き出したのがきっかけで、試行錯誤を繰り返して、花づくりにたどり着きました。現在では10名のメンバーがお花づくりに取り組んでいます。

キノハナは、木を削った際に出てくる「かんなくず」を利用して1つずつ手作りしており、この花を組み合わせて花束やボックスの商品にしています。木の種類によって異なる「木の模様」「色」「香り」を利用して「バラ」や「カーネーション」などを作っています。

キノハナの魅力として、キノハナは枯れることのないお花として、経年変化を楽しみながら永続的に飾ることが可能です。結婚式や新築祝い、プレゼントなどの「大切な日」の思い出として飾り続け、温かみのある木の風合いと、木の香りによるリラククス感を、手軽に家の中に取り入れることが出来、生活の中で自然を身近に感じてもらえます。

キノハナの材料は地元の木を使いたいと、長野県産の「ヒノキ」や「カラマツ」をメインに使用し



ワークショップ

ています。カラマツ材については100%地元材(北相木村産)を利用し、地域にある森林資源の有効活用に取り組んでいます。また、キノハナはどんな木からも作ることが出来、木工所から出る端材・廃棄材からも作っています。端材等を利用することにより、様々な種類の木が手に入り、また木工所は廃棄費用の削減に繋がっています。

新たな可能性として、最近ではキノハナを草木染めにより着色しています。花びらや果実、草木などの自然素材で色付けすることで、深みのある、やさしい色合いに仕上がります。同じ色に染めることが出来ないため、すべての草木染めが1点モノのオリジナルカラーです。経年変化により、花の色が薄くなるがありますが、自然と同じように、季節の移り変わりを感ずることが出来る魅力があります。

新たな取組みの2つ目として、木を体感できる「木育教材(教育資材)」としての活用にも取り組んでいます。様々な木の種類を「見て」「触れて」「香って」を感じることが出来る木育教材となっており、手軽に木に触れることが出来るため、木を身近に感じるきっかけとなっています。キノハナはワークショップや学校への体験教室等を通して木の魅力を発信しています。

これらの取組みにより2019年に「キノハナkinano」はウッドデザイン賞の木製品分野でソーシヤル・デザイン部門を受賞することができました。

北相木村で始まった、新しい木材利用の取組みを紹介させていただきます。小さな村の小さな活動ですが応援よろしくお願ひします。

【北相木村 経済建設課】

# 県産材ユーザーを増やしたい

林材ライター 赤堀 楠雄



## アカマツDIY用材を販売

伊那市のラーチアンドパインという会社が一般ユーザー向けに県産アカマツのDIY用材を販売しています。信州を代表する樹種にちなんだ社名のこの会社を立ち上げたのは、同市に住む木平英一さん（1965年生まれ）。木平さんは、薪の宅配で知られるディーエルディーに約14年間在籍し、昨年7月に同社を退社してラーチアンドパインを設立しました。

「産直で地域材を消費者に届けるには、DIYかなと思ったので」と話す木平さんが販売しているのは、ツーバイフォー材（長さ4m×38mm×89mm）と板材です。板材は長さが2m、厚さが15mm、幅は90mm、120mm、150mmで、「面

をつくりやすいように」（木平さん）実加工が施されています。

定価（税別）はツーバイフォー材が1本1200円、板材（1枚当たり）は幅90mmが650円、幅120mmが800円、幅150mmが1000円。ほぼ毎月、販売イベントが開かれているので、足を運べば誰でも県産アカマツのDIY材を購入することができます。

## 木造入居者は人口の1%

木材の利用分野でもっとも重視されているのは住宅です。ただ、住宅は需要のパイは大きくても、木造住宅を建てたり買ったりする人は必ずしも多くなく、ユーザー層を拡大する効果はそれほど期待できないと思います。

県内で1年間に新築木造住宅のユーザー（住人）がどれだけ増えているのかを、年間の木造住宅着工戸数に1世帯当たりの平均人数をかけて試算すると、昨年の県内の木造住宅着工戸数は8481戸、

今年1月1日時点の平均世帯人数は2・35人ですので、結果は1万9939人となり、これは県の人口（207万2219人）の同時点のわずか0・961%に過ぎません。この傾向は他県あるいは全国平均でも同様で、いずれも年間木造入居者数は人口の1%前後になります。

しかも、材料を国産材あるいは県産材と絞り込んでいくと、人数はさらに少なくなり、割合も小さくなるはずですし、この人たちは、しばらくはその家に住み続けるでしょうから、簡単にはリピーターになってくれません。

## 県産材を入手しやすくしたい

一方、DIYはどうでしょう。需要を増やす効果はそれほど期待できないとしても、住宅のような大きな買い物ではないため、さまざまな階層の老若男女にユーザーになってもらえそうです。日常的に何度も利用するリピーターになつてくれるかもしれません。現実にはコロナ禍による「巣ごもり需要」で、ホームセンターにおける木材の売れ行きは好調だと聞きます。

ただ、木材のユーザーは増えたとしても、県産材のユーザーとなるとどうでしょうか。ホームセンターに並んでいる木材は外材や他県産材ばかりですし、製材所や材木店で県産材を注文するというのは、普通の生活者にとってはハードルがかなり高くなります。

カラマツやアカマツ、スギやヒノキ、さまざまな広葉樹と、信州の山々ではたくさんのお木が生育しています。しかし、その山からもたらされる木材を入手しようとしても難しいのが現実です。

県産材がもっと気軽に利用できるようになり、そのことを通じて、多くの県民が県内の森や林業について考えてくれるようになれば、そのメリットは小さくありません。冒頭に紹介した木平さんの取り組みは、その意味で一石を投じるものと言え、こうした動きが広がることに期待しています。



乾燥中のアカマツDIY用材と木平さん



## カラマツフェスと覽古考新



令和3年10月24日(日)公益社団法人佐久青年会議所地域考新委員会の主催で「カラマツフェス」が佐久市駒場公園で開催されました。

この「カラマツフェス」は、カラマツ林業が盛んであった佐久地域で、カラマツを再認識してもらおうことをテーマにしています。

これは、主催者の考新委員会の名の由来である「覽古考新」(古きを知り、新しきを考える)からきています。

会場では、カラマツ展示ハウスやカラマツ材を使用した休憩所など、カラマツ材をじかに見て体験していただくことや、当課も協力した「森の研究所」で子どもたちにカラマツのお話しとクイズラリーを行い、300名近い参加がありました。またコロナ禍も落ち着きはじめ、キッチンカーが多く出店したこともあり、多くの子ども連れのご家族など約2000人の来場者がありました。この場をお借りして感謝申し上げます。

参加された方が佐久地域の「カラマツ」を再認識していただき、脱炭素社会や持続可能な社会などを踏まえた新しい産業を考える契機となれば幸いです。



木工体験、イスづくり



「森の研究所」でのお話しカラマツはかせを目指せ!



カラマツ展示ハウス  
(森林税を活用)

【佐久地域振興局林務課】



## 長野県林業大学校男子寮棟 構造見学会を開催

長野県林業大学校は昭和54年の開校以来、750名以上の卒業生を林業関係各界に輩出してきました。全寮制の学校として、開校以来学生の生活の場であった男子寮棟が老朽化したため、令和4年4月の供用開始を目指して建築工事が進行中です。

令和3年8月下旬から柱や梁を組み立てる「建て方」工事が本格化したことから、令和3年9月16日(木)に、地元林業・木材産業関係者等を招いて構造見学会を開催しました。見学会では、設計を担当した新井建築工房+設計同人NEXTの新井優氏による案内のもと、建築中の建物内に入り、木曾産のヒノキやカラマツをふんだんに活用した構造を間近で見学することができました。

新男子寮棟は木造二階建てで、延床面積937㎡。木材使用量は209㎡で、地域材使用率は99.7%です。寮室は従来どおりの四人部屋で、現状よりも3.5㎡広い26㎡となります。ベッドについても、二段ベッドから机一体型の個人ベッドに変更することで、学生のプライバシーや快適性にも配慮した設計となっています。



新男子寮棟の完成予想図



新男子寮棟内部の見学の様子

長野県のゼロカーボンに向けた取組の一環として、また、林業を学ぶ学校の象徴として県有施設では初めて熱源にチップボイラーを導入します。

【信州の木活用課】



# 令和3年度長野県きのこ品評会を開催しました

生産量日本一を誇る長野県のきのこの生産技術及び品質の更なる向上を図るため、信州きのこ祭り推進協議会の主催により、10月12日に長野市東北公民館において令和3年度長野県きのこ品評会が開催されました。平成元年の台風19号災やコロナ禍により2年連続で中止となったこの品評会ですが、生産者をはじめとする関係者の皆様のお力添えもあり3年ぶりの開催となりました。

当日は、地方予選に出品された270点のうち厳選された106点が本選会場に持ち込まれました。出品物は栽培技術の高さがうかがわれる、素晴らしいものばかりであり、「きのこ王国」長野県の生産者および関係者の日頃の努力、実力を実感しました。審査員(長野県林業総合センター今井信所長他11名)が審査基準に従い厳正な審査を行い、農林水産大臣賞2点他19点を選出しました。受賞された皆様、あらためておめでとうございます。

【信州の木活用課】

## 長野県きのこ品評会入賞者一覧【一部抜粋】

受賞名	品目	氏名	住所
農林水産大臣賞	えのきたけ	有限会社マルヨ	中野市
	ぶなしめじ	涌井 正弘	中野市
長野県庁賞	えのきたけ	池田 雅彦	中野市
	ぶなしめじ	布施谷 壮仙	山ノ内町
	しいたけ・なめこ等(なめこ)	嘉部 孝之	木島平村
長野県知事賞	えのきたけ	農事組合法人あさひ生産組合	中野市
	ぶなしめじ	高柳 唱一	飯山市
	しいたけ・なめこ等(生しいたけ)	赤羽 潔	伊那市



審査風景

なっとく!

# 森林経営管理制度

その12

新たな森林管理システムである「森林経営管理制度」などの疑問に森林経営管理支援センターがお答えします

**Q** 森林環境譲与税の用途について教えてください。

**A** 森林環境譲与税(以下譲与税)は、温室効果ガス排出削減目標の達成や災害防止を目的に、森林整備等に必要な地方財源を安定的に確保するために創設されました。譲与税は令和元年度より配分されており、用途として

まずは森林経営管理制度の運用に充てること、また、地域(市町村)が有する課題解決のための森林整備や、森林整備を担う人材の育成、木材利用の促進などに活用されます。

県内市町村の譲与税の活用状況を見ると、今後の森林経営管理制度の運用に必要な予算確保のため基金に積み立てている自治体や地域特有の課題解決のためにさまざまな使途に活用している自治体があります。(下記活用事例参照)

譲与税は、森林整備が現状より進むための手段として活用するなど、市町村の工夫次第では今まで手を付けることができなかった森林の課題に幅広く対応することが可能です。

## 森林環境譲与税の活用事例(令和2年度)

長野市	間伐や間伐材の搬出、松くい虫被害木の危険木処理、公共施設への木製品の設置
伊那市	間伐や樹種転換、作業道開設、自治体間連携による木材利活用の実施
木曽郡6町村	木曾広域連合内に「森林整備推進室」を設置し、各町村からの負担金等により事業を実施
小海町	林道の草刈り等による路網整備、森林経営管理制度対象森林の抽出
木祖村	木曾広域連合による意向調査に加え、村独自事業として路網整備、公共施設の木質化推進
塩尻市	間伐材を買い取り市民へ薪を販売、チェーンソー安全講習の開催、発電用燃料材として低質材の買い取り等の支援
中川村	木質バイオマス(薪)活用による森林整備の推進
箕輪町	自治体間連携による森林整備(東京都豊島区との協定により間伐、作業道を開設。豊島区はCO <sub>2</sub> 吸収量認証を受ける)

森林経営管理制度に関するお問い合わせは  
長野県林務部森林政策課森林経営管理支援センター  
電話 0260-250047(直通) 25004(直通)  
E-mail: shinrin-kanri@pref.nagano.lg.jp



9月4日(土)に第11回

## 若手林業ビジネスサミットin長野を開催しました!

今年で11回目となったこのサミットは、元々は現地開催で全国の林業関係者・学生参加者(主に39歳以下)が各現場を回って学ぶプログラムでしたが、新型コロナウイルス感染症蔓延防止の観点からオンライン開催としました。

昨今、建築・土木用材のほか合板、アロマ、森林サービス等と活用幅が広がる中、転換期を迎えている森林・林業。テーマは「カコを繋いで、ミライに花咲く地域資源!」。こんな時だからこそ皆で前を向き始めたためです。

第一部では、佐久地域のカラマツの歴史と生産システムを、南佐久中部森林組合参事の津津氏より伺いました。伐採期を迎えるカラマツと需要の増加を見据え、機械化及び技術者の増員、平成28年から始めた「主伐後の再造林(保育10年保証制度)」。様々な試算や努力と「主伐・再造林」を確実にを行うことで、地域の森林を次代へ繋ぐことの大切さを学ぶことができました。

第二部では、かんなくずで花を作る「キノハナ」の取組を支える北相木村役場の坂本氏に御協力いただき、事前に作成キットを参加者へ送り、オンライン形式でワークショップを行いました。参加者は、実際にライプの作成動画を見てチャットで質問しつつ、綺麗なお花を作っていました。

森林の蓄積が豊富なかんなくずでは「地域資源」とは言えません。価値を付した素材を商品として流通させること、産業として地域の雇用を生むこととで初めて地域資源が活用され還元されていく仕組みを学びました。

第三部では、観光産業や環境保全に積極的な北アルプス地域を舞台に、山仕事創造舎の原田氏に御協力いただきました。ディスカッション形式で、環境保全に配慮しながら持続的に森林を活用していくために、先進技術や情報の活用だけでなく、どのような山づくりをしていくべきか議論を深めました。

業種により様々な視点がある業界ですが、他地域・他業界・他者から学び、知ることができるサミットを長野県で開催することができてよかったです。

【若手林業ビジネスサミットin長野事務局】

主伐期を迎えた森林、再造林地に  
災害に備えて安心を

# 森林保険

手厚い補償\*で  
皆様の森林をお守りします

※1ha 加入時の例

樹種	林齢	加入年数	保険金額(補償額)	保険料(掛け金)
カラマツ	1年生	1年	800,000円	3,432円
ヒノキ	51年生	5年	4,500,000円	65,205円

ご加入はお近くの森林組合へ

お問い合わせ先 ☎026-226-2504 長野県森林組合連合会

## 信大附属小6年生が校外学習で

### 長野県森連 北信木材センターを訪問



▲真剣な眼差しで質問をする附属小の児童  
質問コーナーでは元気よく沢山の質問が上がった

その現状を伝えるためには、自ら森林・林業で働く方々と出会い、その目で確かめ、お話を聞くことが大切ということから、校外学習に來られました。

当日はまず、北信木材センターの小池所長が木材センターの役割や木材流通について説明を行いました。子どもたちからは木の値段やどんな樹種に人気があるか、どんな人が買いに来るのかなどの質問が活発に上がりました。

その後土場に移動し、実際に木に触れたり、香りや色、樹皮の違いを確かめました。また、自動選木機が動いている様子も見学し、木材流通の現場をその目で見て触れて、話を聴くことで、森林・林業の知識をさらに深めることが出来たようです。



▲普段見慣れない本物の丸太に触れて学ぶ子どもたち



▲これからの担う世代こそ社会的課題に意識が高く敏感だ

2015年9月の国連サミットで採択された、SDGs（持続可能な開発目標）は、2030年までに持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、世界中の様々な分野で取り組みが始まっています。

今回、講師派遣のご依頼をいただき、10月8日に長野県森連指導利用課の林主任が「長野県の森林の現状や取り組みについて」をテーマに「森林組合系統のSDGsへの取り組み」と題して1年生の生徒たちへスライドで紹介しました。

森林整備や木材のカスケード利用、森林認証の取り組みがSDGsに貢献していることや、協同組合の取り組みやあり方がSDGsの達成に重要な役割を期待されていることにも触れ、説明しました。

生徒からは木の種類や紅葉のしくみなど素朴な樹木のことから、気候変動の森林への影響や木材の流通についての質問があり、地球環境問題への意識の高さや森林・林業への興味を伺うことが出来ました。

当校では数年前に林業に興味を持ち、森林分野の学科がある高校へ進学した生徒もいたということもあり、森林・林業について、未来を担う若者へのアピールの必要性を感じた一日となりました。



## 長野市立裾花中学校1年生総合学習で

### 森林組合系統のSDGsへの取り組みを紹介



## 令和3年度 長野県林業職員協会県大会

2021年10月19日、上田市富士山の上小森林センターで、令和3年度長野県林業職員協会県大会が開催されました。

会員の森林組合職員、市町村林務担当者など県内各地から51名が参加し、消毒や検温、会場の換気など新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を取る中での開催となりました。

昨年度の池田町で行われた県大会で体験した高精度GNSS機器での測量が、6月の要領改正により長野県の

造林補助申請で認められたことから、今回は実際に測量して申請に必要な測量データの作成をGISソフト上で演習するという、より実務に直結した内容で行われました。



## 最先端技術を現場へ

▲南都会長による主催者挨拶

来賓には信州上小森林組合倉沢組合長、上田市森林整備課茅野課長、上田地域振興局林務課小口課長が出席



▲▶ DG-Pro1でのGNSS測量に取り組む参加者

参加者の要望から樹冠が密閉した林内を想定して木の陰で測位を試す場面も

午前は、長野県林務部森林づくり推進課技師 五十嵐康太氏から「造林補助申請におけるGNSSの活用について」の説明をいただいた後、信州上小森林組合の敷地内で班に分かれ、高精度GNSSレシーバー「DG-Pro1」と専用スマートフォンアプリ「Droger GPS」を使用し、測量を行いました。

午後からは、取得した測量データをGISソフト「QGIS」を使用して整理、図面作成するまでの作業を班ごとに演習しました。

最後に森林組合における事例紹介として、松本広域森林組合あづみ支所主任 有賀弘好氏と北信州森林組合業務課計画係長 尾淵義輝氏からそれぞれ講演していただきました。



▲班ごとに協力し合い、図面が出来上がってきた高精度なデータが簡易に得られることから、森林調査業務の省力化や所有者により説得力ある提案が可能になることが期待されている

▶ (左) 松本広域森林組合有賀氏からは実際に補助申請した事例を、(右) 北信州森林組合 尾淵氏からは路網整備や境界明確化事業での活用例を紹介頂いた



▲実務に繋がる内容ということで、多くの質問や参加者同士で活発な意見交換も行われた



森林組合及び市町村の職員が会員となり、民有林の発展を図るため、会員相互の親睦ならびに林業に関する知識・技能の研鑽に努め、自らの社会的・経済的地位の向上を期することを目的とした組織です。事務局は県森連に設置されています。

# 改めて知りたい！ 森林組合

朝の連続ドラマの舞台になるなど、新たに注目を集める森林組合。改めて森林組合がどんな取組みをしているのか紹介していく企画です。今回は「受託と請負」について解説していきます！

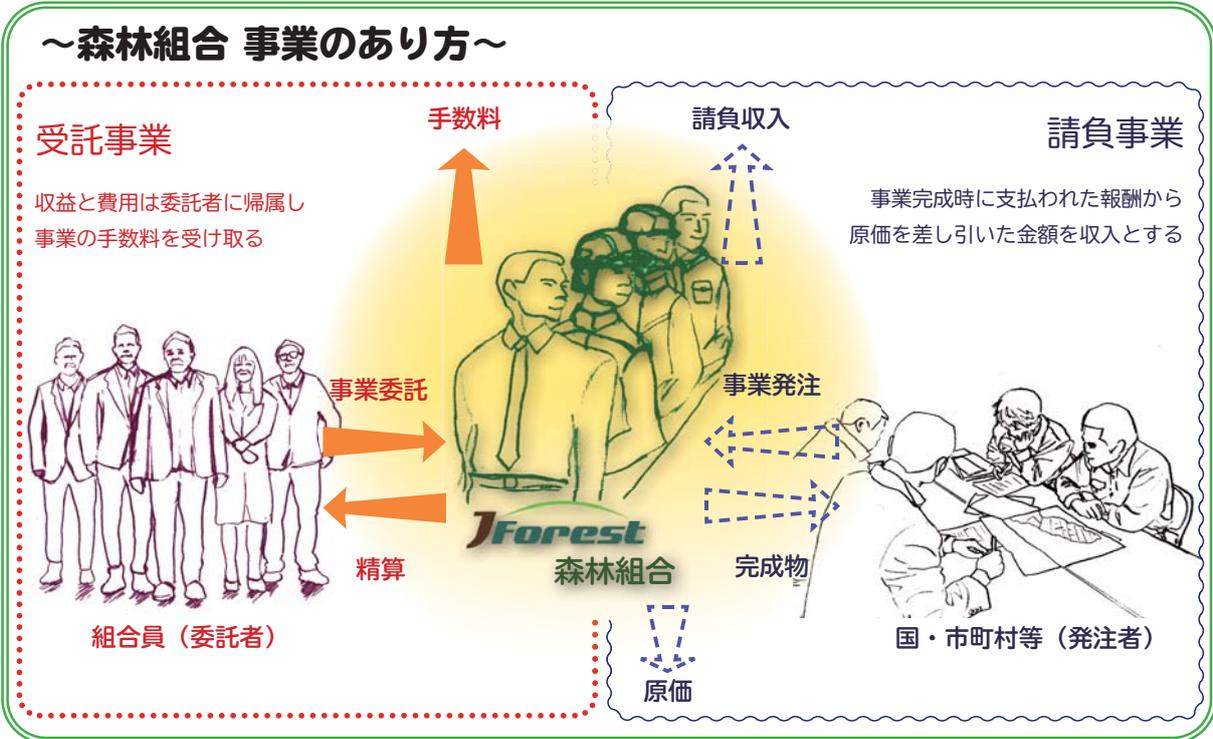
**受託と請負**

森林組合の事業では組合員への直接の奉仕という協同組合的観点から「受託事業」が基本的に行われます。

組合員が森林組合に事業を委託し、組合は組合員の代わりに事業を行い、得た収益から規約で定めた手数料率に基づいた手数料を受け取るという仕組みです。事業に係る経費をあらかじめ組合員から受け取るか、組合が立替えて負担します。事業が終了すると精算して、組合は手数料を受け取ります。

収益と費用はあくまでも委託者である組合員に帰属していることがポイントになり、組合は事業を行うにあたって組合員への収益の十分な還元が求められます。

また、森林組合が国や県、市町村等から森林整備や治山事業などを競争入札等で落札し、請負事業として行うことがあります。請負は多くの事業体が行っている事業の契約方法であり、発注者から事業を請け負い、完成時に発注者が支払った報酬から掛かった原価を差し引いた金額が組合の収入となります。



北アルプス森林組合  
HPはこちら→



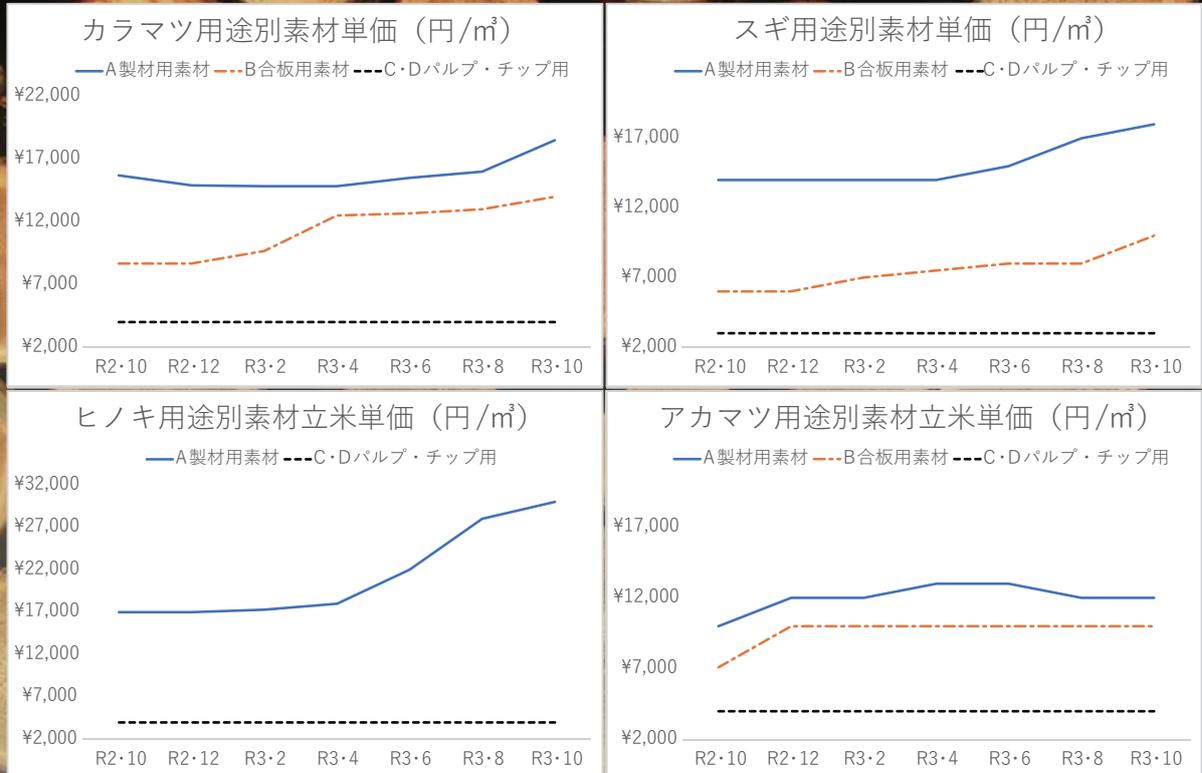
**大北森林組合から  
北アルプス森林組合へ**

大北森林組合は令和3年9月1日付けで名称を「北アルプス森林組合」に改称しました。

事業エリアはこれまでと変わらず、雄大な北アルプスを背景に構える大町市と北安曇郡の小谷村、白馬村、松川村、池田町とし、森林整備や森林経営計画の作成のほか、昨年登録された「長野県SDGs推進企業」（県内森林組合では北信州森林組合、飯伊森林組合、根羽村森林組合が登録）での活動の一端として、木質バイオマスチップ生産拠点の建設を進めており、再生可能な地域のエネルギーとして森林資源の活用にも取り組んでいます。

名称変更により、心機一転し、組合の再生と地域に期待、信頼される中核的な組合を目指す北アルプス森林組合の取り組みを当連合会としても引き続き支援していきます。

# JForest 長野県の木材市況



※北信、中信、伊那木材センターの市況表より作成

秋も深まり、北アルプスや浅間山など信州の高い山からは初冠雪など冬の便りが届く中、山は伐採の適期を迎えています。10月までの県内3木材センターの市売結果を見ていきますと、カラマツ、ヒノキ、スギA材では価格上昇が継続し、記念市にかけて佳境を迎えております。カラマツA材は良材が入荷したことが価格上昇の理由にあり、カラマツ・スギの合板向けでも需要量に対して不足傾向なことから単価を上げています。アカマツは材の劣化する季節を抜けたことにより、安定した需要のある土木向けだけではなくA材においても今後回復してくることが期待されます。広葉樹材はクリ、なら、さくら、クルミ等人気の樹種の良質大径材に活発な引き合いが継続しています。

◆いよいよ記念市です！◆

11月16日(火)に中信木材センター、11月17日(水)に伊那木材センター、11月18日(木)に北信木材センターが記念市です。

長野県森連 HP 市売情報では、写真付きで最新の入荷情報や公売明細を随時掲載していきます。

下記 QR コードからアクセス出来ますので、ぜひご注目下さい！

【当連合会は合法木材に取り組んでおります】

合法木材供給事業者の認定を取得し、出荷時には合法的に伐採された木材であることのコメントと合法木材認定番号及び伐採地と伐採箇所が記載された納品書及び伐採届の提出をお願いします。

※安全のため、木材センターでの荷下ろし・積み込みの際には車止めの使用とヘルメットの着用をよろしくお願いします。



県森連 HP では市売情報を写真付きで随時更新しております！

最新の市況表もご覧いただけますので、納材や入札の検討にご活用ください！

「長野の林業」のバックナンバーもこちらから♪



長野県森連